**ハンドマイク街頭演説原稿例　　オリ・パラ中止・入院制限の撤回を**

二〇二一年八月五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、東京五輪が開催されるなか、新規感染者は連日、過去最多を記録し、爆発的に増え続けています。４日時点で都内の新規感染者数は４０００人を超え、埼玉県では、過去最多の１２００人に上りました。かつてない感染者の急増によって、県内の医療機関の入院者数も１０００人近くとなり、すでに医療体制への影響がきわめて深刻となっています。

　このようななか、菅政権は突如、コロナ患者急増地域では、重症者以外は原則として自宅療養とする方針を打ち出しました。国民からは、「まともな医療体制の提供を放棄するもの」「自宅で亡くなる人が続出する。事実上の棄民政策だ」など厳しい批判と怒りの声が広がっています。野党はもちろん自民党や公明党も方針の撤回を求めています。日本共産党も入院制限の方針を撤回させるために全力をあげてがんばります。みなさんのご支援をよろしくお願いします。

みなさん、日本共産党は東京五輪を開催すれば、行動抑制を求めるべき国民に誤ったメッセージをあたえ、人流の抑制など感染対策の協力が得らえなくなると一貫して主張してきました。いまの感染爆発ともいうべき深刻な事態を招いた責任は、多くの警鐘を無視し、政治的な思惑で強行開催した菅首相と小池都知事にあります。とりわけ問題なのは、五輪開催を続けることで、いまの深刻な事態への危機意識を行政と国民が共有できていないことです。オリ・パラ中止の決断こそ、最大のメッセージとなります。ただちに五輪を中止し、国費による大規模ＰＣＲ検査の実施、営業とくらしの補償、医療機関への支援などコロナ収束のためのあらゆる対策をただちに行うべきです。日本共産党は、何よりも国民の命を最優先する立場から、引き続オリ・パラの中止を強く求めていきます。みなさんのご支援をよろしくお願いします。

　みなさん、菅政権が五輪開催に固執するなか、国民のくらしや雇用、飲食店はじめお店の営業は限界を超えつつあります。「自粛」に協力してきたお店も、閉店・休業が増え続け、一方でやむにやまれず営業に踏み切るところもうまれています。いま、本当に必要なのは営業を維持できるような継続的な直接支援です。日本共産党は、第２弾の持続化給付金や家賃支援金の支給を国にあらためて強く求めていきます。持続化給付金の再支給を求める署名も始めました。事業者はじめ、みなさんと力をあわせてがんばります。数か月後に迫った総選挙で、野党共闘による政権交代を何としても実現するためにも、一貫して野党共闘を進める日本共産党にぜひみなさんのお力をお貸しください。党の政策は党ホームページなどでもご覧いただけます。来る総選挙では、比例代表で日本共産党を大きく伸ばしてください。みなさんの大きなご支援を重ねてお願いします。

　最後に、いま上映中の政治バラエティ映画・「パンケーキを毒見する」にも登場する「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）